

■ただいま整理作業中！甕塚古墳② …… P1～2  
■いわたのこんなお話 …… P3  
■WEBで文化財だよりを楽しもう！ …… P4  
■「地域社会総がかり」で文化財を守る  
谷口安曇 …… P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和3年11月1日発行

## ただいま整理作業中！<sup>こしきづか</sup>甕塚古墳②



今回の特集は、文化財だより第184号で紹介した甕塚古墳の整理作業の第2弾です。磐田市文化財保存活用地域計画の課題の1つでもある遺跡・古墳の成果の公表にも繋がる、全国的に見ても重要な甕塚古墳の報告書の完成・公表を目的とし、令和元年度から継続して整理作業をおこなっています。その成果の一部を紹介しましょう。



第184号



地域計画

### 甕塚古墳とは？

- ① 6世紀初め頃、県内で最も早く<sup>よこあなしきせきしつ</sup>横穴式石室が設けられた径約26mの円墳で、市内で唯一石棺<sup>せつかん</sup>が見つかっている。
- ② 石室内<sup>せきしつない</sup>と墳丘<sup>ふんきゅう</sup>から、須恵器<sup>すえき</sup>という硬い土器<sup>かた</sup>や土師器<sup>はじき</sup>という素焼き<sup>すや</sup>の土器が多量に出土<sup>しゅつちゆう</sup>していて、その形もバラエティーに富む。
- ③ 墳丘<sup>ふんきゅう</sup>の裾<sup>すそ</sup>から円筒埴輪<sup>えんとうわ</sup>の列<sup>はにわかん</sup>や埴輪棺<sup>ひつぎ</sup>（円筒埴輪を棺に転用したもの）が出土したほか、石室内からも60点以上の埴輪が出土している。石室内から多数の埴輪が出土した例は全国的にも非常に珍しい。
- ④ 石室内から甲冑<sup>かっちゆう</sup>や武器・馬具<sup>ばぐ</sup>など、多量の金属製品が出土している。鉄製の馬具などの一部は、金銅装（鉄製の本体に銅が貼られ、金メッキされている）。

以上の内容から、当時の静岡県西部で最も有力な<sup>しゅちやう</sup>首長の墓と考えられます。



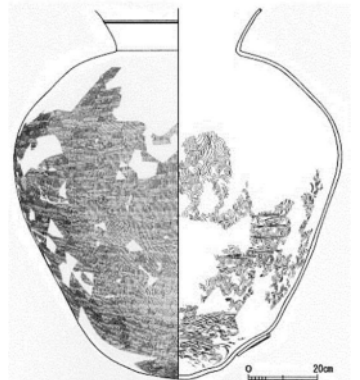
甕塚古墳の石室と石棺（昭和34年）



甕塚古墳がある場所とその周囲は民有地です。見学はご遠慮ください。

### 土器の実測図の作成

須恵器や土師器の大きさや形、厚みなどを測って図化する実測や、実測した図の浄書（トレース）作業を現在おこなっています。昨年度は、墳丘から出土した大きな甕<sup>かめ</sup>の実測図を作成しました。作図は、甕が大きくて手による実測が難しいため、専門機関に委託しました。その結果、最大径94.4cm、高さ107.6cmであることがわかりました。こんな大きな土器を古墳のある山の上まで運ぶことだけでも大変な作業です。



大甕とその実測図

## 金属製品の保存処理



新たに接合した辻金具  
(横 5.5 cm)

つじかなく  
辻金具

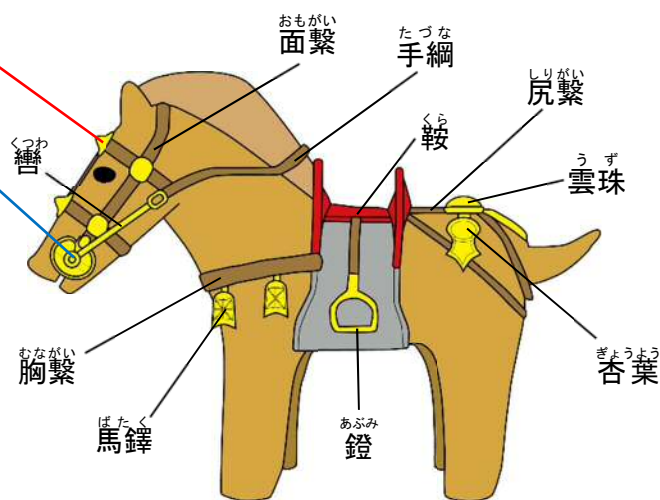


接合することがわかった鏡板  
(横 10.8 cm)

かがみいた  
鏡板

出土した遺物の劣化が進まないように化学的な処理を施します。作業は平成からおこなっていて、昨年度からは小さな部材を中心に専門機関に委託しています。その中には部材が接合し、馬具の一種であることがわかったものもあります。

来年度は、保存処理済みの部材の接合作業をおこなう予定です。この中には写真のように金銅装のもの（金色の部分に金メッキ）も何点かあるため、より一層慎重な作業が必要となります。



馬具の名称

## 埴輪の接合作業

埴輪は、古墳の上などに並べられた円筒またはものの形を模した焼き物です。甕塚古墳では、円筒状の形をした円筒埴輪が多数出土しているほか、盾形埴輪と<sup>たてがた</sup>と呼ばれる盾（矢を防ぐための板）を模した埴輪が出土しています。バラバラの状態のものを接合し、復元する作業を進めています。来年度は接合した埴輪の実測図の作成をおこなう予定です。

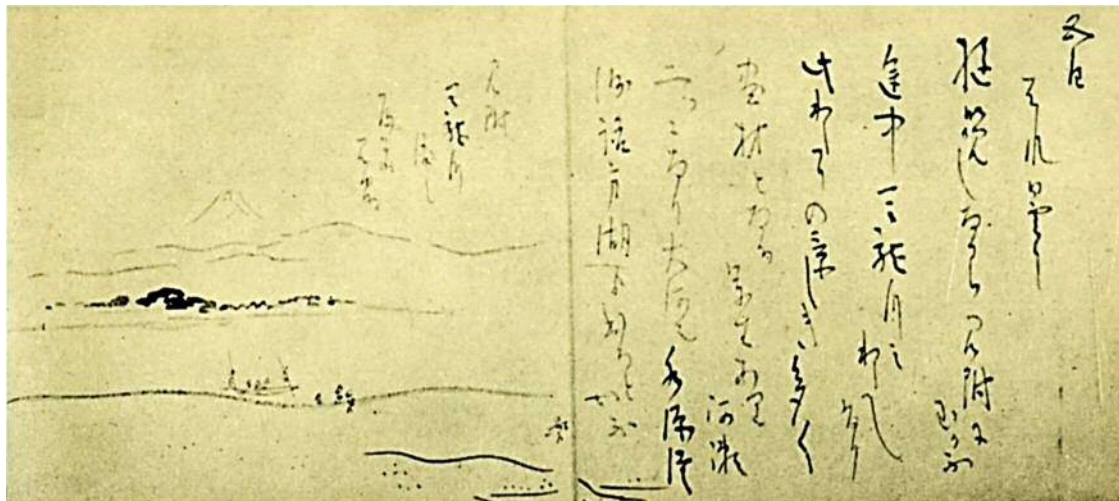


バラバラの埴輪の接合作業



接合が進んだ埴輪

『東海道五十三次』をはじめ風景画や役者絵、美人絵などを描いた浮世絵師、歌川広重。その広重が、磐田を訪れていたことをご存知でしょうか。今回は、歌川広重が記した日記、スケッチをご紹介します。



五日

はれ曇り

遊覧しながら見付に

むかふ

途中天竜川のわたし

有り

此わたりの景しき多く

画材となる写生あり

河瀬

二つになり大河也水源信  
州諏訪湖より出るといふ

見付

天竜川

渡し

富士山

見ゆる

(出典…遠藤金太郎編著  
『広重絵日記』一

美術出版)



保永堂版『東海道五拾三次 見付』

上記の資料は、江戸時代後期の天保元年(1830)に広重が34歳のときに記した「東海道下り日記」です。日記は8月12日から始まり、9月5日に天竜川を渡り見付を訪れています。

所説ありますが、『豊田町誌 別冊I 東海道と池田渡船 付録2 紀行文』によれば、このときの日記が保永堂版『東海道五拾三次』のもととなったといわれています。

この影響か、その後、見付を描いた浮世絵の多くが、天竜川の渡しを描いています。

広重に画材となる場所だと言われスケッチされた天竜川の渡し、当時に思いを馳せ、天竜川の風景を眺めてみるのもいいかもしれません。



左: 広重・三代豊国 双筆五十三次 見付(部分) 右: 二代広重 東海道五十三次 見付

磐田市ホームページで公開中

# WEBで文化財だよりを楽しもう！

パソコンやタブレット、スマートフォンなどから閲覧できます！



文化財課  
キャラクター  
ともちゃん

情報端末でいわた文化財だよりを楽しんでみませんか。磐田市ホームページでは、最新号のほかバックナンバーも公開しています。バックナンバーの閲覧方法と、これまでに発行した文化財だよりの中から今月のお勧めをご紹介します！



### ● 閲覧方法 ●

磐田市ホームページトップページ内のページ番号検索に1007901を入力後、いわた文化財だよりのバックナンバーの一覧から閲覧したい号数をダブルクリックしてください。

### ● 今月のお勧め ●

石造物というと、何を思い描きますか？お寺や道端で見かける石仏、鳥居、道標、記念碑など石を加工した様々な造形物があります。

シリーズ「市内の石造物を訪ねて」では身近な石造物について紹介しています。第62、65、68号の全3回です。ぜひ、ご覧ください。

## 職員リレー コラム

### 「地域社会総がかり」で文化財を守る

谷口安曇

今年7月に国の認定を受けた「磐田市文化財保存活用地域計画」の作成を担当しました。この計画は、少子高齢化や過疎化によって文化財の保存が危機的な状況となってきた中で、磐田市が今後、文化財の保存や活用についての課題や方針をまとめたものです。

平成31年4月、文化庁より地域計画作成の指針が示されました。指針では、“地域社会総がかり”で文化財の保存活用に取り組む必要があるとしています。“地域社会総がかり”とはどのような状態なのか、その実現のためには文化財行政は何をすればよいのかを考えてみました。

これまで、文化財の保存や活用の体制は行政を中心として、文化財保存活用団体・専門家・歴史愛好家の方などに支えられてきました。“地域社会総がかり”とは、これまで文化財に興味関心がなかった市民を巻き込むこと、そのために行政は人材育成に取り組むことが必要だと、この計画作成を通じて強く感じました。

市民誰もが指定の有無にかかわらず文化財を「地域の宝」だと思い、“地域社会総がかり”で「自然と歴史・文化のまち磐田」を実現できるよう、この計画に基づき事業を実施していきたいです。



磐田市文化財保存活用地域計画



地域計画は市ホームページで閲覧できます

**編集後記** いわた文化財だよりも、ついに200号！市HPでは、これまでに発行しただよりを公開しています！これからも文化財だよりをよろしくお願ひいたします。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699  
◆WEB版は市HPから閲覧できます。 **磐田 文化財だより** **検索**

